



全労連青年部ニュース

# YOUTH TOPIC

つながる・たたかう・支えあう青年部を

ホームページ <http://www.zenroren.gr.jp/jp/seinen/>

## 全労連青年部第32回定期大会(続編) 全体討論の様子

今号では、9月28～29日に開催した全労連青年部第32回定期大会の全体討論の発言要旨をお送りします。2日間をとおして代議員・特別代議員・傍聴参加者から18人(6単産10地方組織)の青年が発言しました。



### 建交労・鈴木 美夏さん

皆さんの反核トラックキャラバンへのご支援に感謝したい。来年ニューヨークで開催される原水禁世界大会に青年代表を2人参加させたいと思っている。財政活動のため物販でTシャツを売っている。ぜひご協力いただきたい。全国青年部の活動報告は改めてさせていただく。



### 北海道・小笠原 洋志さん

10月12～14日、「ピースエッグ(日本平和委員会・北海道実行委員会主催)」を日高で行う。カンパにご協力いただきたい。(動画で活動紹介)北海道は広く、集まるのは簡単ではないが力を合わせて頑張っている。さっぽろ青年ユニオンではコールセンターの賃金未払い問題で粘り強くたたかっている。ツイッターで情報を発信しているので応援して欲しい。道労連青年協のツイッターをフォローして欲しい。青年協は規約を改正して活動を立て直している。



### 千葉・小沢 義憲さん

青年部は毎月1回会議を開き、5単組で運営している。2年に1度の関ブロ企画「JOYNeT(ジョイント)」を来年5月23～24日に開催予定。千葉は現地実行委員会として頑張っている。台風15号で被災し、千葉では今でも300件ほどの停電が続いている。風による建物の被害が大きかったため、神奈川や千葉の土建のなかまが支援に来てくれて助かっている。復興に向けなかまと一緒に何かしたいと思い、カンパにとりくんでいる。皆さんの力を貸して欲しい。



### 長野・新楽 祐幸さん

昨年10月の代表者委員会で医労連、単協労連、JMITU、高教組から役員を選出した。青年部で5月に体育大会を開催。ニュースポーツのフラバールバレー、キンボールで交流し、「選挙に行こうキャンペーン」の一環として参院選に向けたミニ学習会なども行った。7月には野尻湖でSUP(パドルスポーツ)とBBQで交流した。10月12日に、長野市で「せやろがいおじさんトークライブ」を行う。消費税や働き方の問題について考えるきっかけにしたい。

### 東京・川邊 良平さん



青年部の会議は役員以外も幅広く参加できるようにしている。基礎学習の強化として東京学習会議と共催で計5回の連続講座と模擬団交を行った。9月に東京ジャックプレ企画として最賃学習・BBQを開催。街頭での最賃シールボードアンケートにもとりくみ、青年の声を集め、労働局に意見書を提出した。青年が生きづらい社会になっている。自己責任で完結してしまっている人が多くいる。人間らしく生きたいという青年の要求を実現するため11月10日、青年大宣伝行動「東京ジャック」を新宿アルタ前で開催する。昨年80人の参加を上回りたい。

### 高知・玉川 貴大さん



この1年間、グループワークで相互理解や関係性を深めることを重視してきた。1月の定期大会では職場の問題を、経営や政策などどの分野で解決できるか、組合で何ができるかを議論。3月の花見企画では最賃と自分たちの生活について考えた。参加組織が偏っていることが課題。県労連青年部とのかかわりを強めてもらうには執行部体制を確立すること。役職を輪番制にすることも検討している。来年は「働くものの学習交流集会」を高知で開催。現地実行委員会は同世代の多様な仲間が集まり、想いを交流する機会。ぜひ成功させたい。ぜひご参加ください。

### 自治労連・河野 夏希さん



青年部は自治労連結成30周年企画「青年未来づくりプロジェクト」に参加。6月にプレ企画と位置付け「青年自治研修会」を北九州で開催。テーマは「住民のため、自分のためいい仕事とはなんだろう」。今後の組合活動の大きなヒントとなった。昨年は各実行委員会なども重なり多忙を極めたが、実行委員会をとおして強い絆が生まれたと感じる。誰かに何かあったとき、その人のことを想えるのは組合活動の大きな意味。実行委員から2人が青年部役員に。次世代育成の場としても大成功したと思う。全員が楽しく活動を続けられる青年部になっていきたい。

### 自治労連・中岡 亮さん



青年部の重点課題は「平和」。17年度青年アンケートでわかった「平和や政治に対する関心が薄い」という実態にもとづき、昨年10月の地方自治研集会で憲法カフェにとりくんだ。1月、愛知の全国委員会では春闘と選挙をテーマに学習。知事選支援の街頭宣伝にもとりくんだ。8月の定期大会では、県域を越えて繋がり交流があったという報告や、組合は加入して終わりではなくフォローが必要という発言があった。次世代育成に繋げるためにも、情報の発信と共有を強化していきたい。全国の青年と繋がっていると実感がある活動をしていきたい。

### 国公労連・米島 徹さん



国公青年フォーラムは学習・交流・行動を柱に活動している。2月の「春の国公青年セミナー」は組織拡大をテーマに。6月の「夏の国公青年セミナー」では人事院、内閣人事局、財務省との交渉、国会議員懇談を行い青年が直面する問題を訴え改善を求めた。機関紙を作るグループワークも実施。10月25～27日に福島で「国公青年交流集会2019」を開催。「自然災害と公務」がテーマ。今後も組合への結集の魅力を伝え、運動の強化・発展に貢献していきたい。青年は組織の活力源、次世代を担う存在。引き続き強化・拡大に全力でとりくみ結集していく。

### 広島・徳田 英明さん



青年部で毎年クリスマスパーティーを開催している。医労連、自治労連、全教などを中心に昨年は50人が参加。大切なルールが1つある。プレゼント交換の品物は最賃金額以内で買えるもの。以前はお菓子の詰め合わせなどが精一杯だったが、年々様変わりしている。19年のわくわく講座とあわせて青年交流会を開催した。会議は役員だけだと少なすぎるため各産別からオブ参加として集まってもらっている。初参加の人も度々来るので懇親会もセットで開いている。今後は企画への参加人数を増やし、3年以内に次の役員にバトンを渡したい。

### 三重・後藤 将太さん



みえ青年連絡会は2年前に中心人物が抜け活動休止、7月の若者アンケートをきっかけに活動再開、共同代表の形をとって4人で運営している。毎月何か企画しようということで、9月に異業種交流会を開催、様々な分野のなかまが集まった。東海北陸ブロックの「サマーセミナー」では、みえ青年企画として「僕の考えた最強の政策」と題し、参加者はくじで決まったテーマについての情勢、問題点、解決策を発表。実は詳しく知らなかったという課題を共有し、学び合うことができたとの声も。皆さんの活動に学んで活かしたい。ご支援を。

### 愛媛・山内 佑樹さん



今年の「働くものの学習交流集会 in えひめ」は四国全体で68人、愛媛から39人が参加。レクのキンボールで汗を流し協力し合うことですぐに打ち解けた。働き方改革の学習も行い、労働者が権利を勝ち取ってきた歴史などについて学んだ。組合の価値に確信を持ったという感想も。愛媛の青年部はベテラン部員が支えている。私は単組の青年に委員長を困らせるほどの活発さを、と言っている。少しずつ意識を広めていくことが大切だと思う。一人ひとりの要求実現のため青年同士で色んな経験を積み、組織拡大できるよう本気でとりくみたい。

### 岡山・大森 俊明さん



体制は部長不在だが、「できることを、できる範囲で、できるだけ行う」をスローガンに細く長く続けていきたい。「選挙に行こうキャンペーン」にとりくみ、3月に要求プラカードを掲げて商店街をパレード。6月は民青のなかまも参加し、岡山駅でトークセッション。足を止めて耳を傾ける青年もいた。8月はヒバクシャ国際署名にとりくんだ。7人参加で10筆を集めた。長崎出身の方が署名をしてくれ、やってよかったと実感した。ブロック全体を盛り上げるため、来年、中国ブロック青年交流集会を企画。楽しい企画になるよう頑張りたい。

### 全教・笹本 育子さん



全教発展のため、新たな3か年計画として青年への支援が手厚くなっている。来冬に沖縄で集会を開催。プロセスを大事にし、開催地任せにせずブロック全体で盛り上げ、繋がりを深めることを大切にする。全国で課題を共有し、ブロック同士の繋がりもつくりたい。「組合ってよくわからない」という声から、青年部紹介動画を制作。関心のない人に動画を見せることがハードルで課題。ハラスメントアンケートを実施。隣の人の想いをちゃんと拾いたい。ゆとりのなさにより青年教職員にしわ寄せがきている実態を伝え、文科省に訴えたい。

### 日本医労連・門岡 瞬さん



「遊び、学び、アクトする」がスローガン。10月に社会保障や最賃がテーマの青年学習交流集会、11月に青年代表者会議を開催し全国の交流の場となった。1～3月の青年統一行動期間は署名運動に主体的にとりくむことを提起、署名の重要性を学ぶきっかけになったとの声も。組合加入促進のためのパワポを作成、4月の新歓オリエンテーションは青年が中心となるよう呼びかけた。8月、北海道の全国アクトは487人が参加し絆が深まった。過労自死事件から教訓を、寸劇を交えてハラスメントについて学習。毎月実施の「9条にカンパイ」の意義を伝えるマニュアルを作成。今後も次世代を担う役員の育成と組織拡大にとりくむ。

### 生協労連・樋口 直哉さん



生協は初任給の最賃割れ、ダブルワークの青年もいる。転職サイトの「条件は今よりいい会社、以上」というコピーに衝撃を受けた。自分の環境を変えるだけで問題は共有できない。15年から「病まない職場、辞めない職場」がテーマ。各地の事例を共有し、組織化の手法を学び職場に持ち帰り、担い手を生んで巻き込み、未来を語っていく。全農協労連青年部の企画に参加し交流。同じ青年層で活動する重要性を感じた。次年度は「病まない辞めない職場を、私たちの手で実現しよう」というテーマで頑張る。自分が主人公、その声が世の中を変える。全労連に結集して社会問題にもとりくみ、担い手を現場レベルでつくるため頑張る。

### 建交労・山内 理恵さん



6月に「青年交流会 in 福岡」を開催。福岡の青年部は4年活動を休止していたが再始動。横のつながりを強めたい。反核トラックキャラバンは今年で24回目。7月に東京を出発し、各地で宣伝行動を行いながら広島をめざし、平和行進に参加。各地のなかまと共に163筆のヒバクシャ国際署名を集めた。約7千羽の千羽鶴を預かり、広島平和記念公園に捧げた。奈良の宣伝中、長崎の被爆者の方が偶然通りすがり、スピーチしてくれた。遠い昔ではないリアルな出来事だったということを実感、将来起こりうることも痛感した。改めて運動への決意をした。皆さんのカンパで完遂できた。協力に感謝。Tシャツ財政活動への協力にも感謝。

### 愛知・用松 寛秋さん



愛労連は毎年2月に最賃生活体験にとりくむ。当時の最賃を月給に換算し15万8千円で生活が成り立つかをシミュレーション。結果は平均7～8万の赤字。この水準では病院にも行けない。1回飲み会や美容室に行けば、生活が成り立たない。こんな状態は健康的で文化的とは言えない。愛労連の15年生計費調査では、25歳男性1人暮らしにかかる生活費は約23万という結果に。時給換算で最低1,300円。500円以上の不足。今後も最賃闘争に注力したい。2月の愛知県知事選挙では、単産の垣根を越えて共通の要求づくりをして宣伝活動にとりくんだ。私は市役所で働いているが、自治体職員が選挙にとりくむ意義を再確認できた。

青年春闘交流集会

2020年2月22日(土)～23日(日)

ユニオンニュースアカデミー2020

2020年6月6日(土)～7日(日)

全労連青年部第33回定期大会

2020年9月26日(土)～27日(日)

年間予定